

学園情報

171

2021年10月1日発行

AZABU UNIVERSITY 麻布大学 麻布大学附属高等学校
麻布大学同窓会



今号テーマ

「事上磨錬」

【スペシャルインタビュー】理事長就任のご挨拶 【特集1】第4期中期目標・中期計画について

【特集2】島根県美郷町に教育研究施設「フィールドワークセンター」を新設

NEXT AZABU CLUB

～目標に向かって突き進む、注目のクラブ～

01 麻布大学 獣医学部 獣医学科 2年次 / 麻生 優希さん tier～人と動物の関係を考える



動物たちが置かれている現状を 現場を体験しながら考えていく

サークル名の「tier」とは、ドイツ語で「動物」という意味。人と動物が共生していく過程で生じるさまざまな問題について勉強しながら、人と動物のよりよい関係を考えていくサークルです。さまざまな活動の柱になっているのが、イヌの譲渡会のお手伝いです。現在、毎月2回のペースでお手伝いさせていただいているのが、「小さな命を守る会」というボランティア団体の活動。飼い主のいないイヌを一時的に会員の家で預かり、定期的開催する譲渡会でその譲渡先を探す活動に携わりながら、人と動物の関係について学んでいます。



新しい飼い主さんに引き取られていく その瞬間を見られるのが一番の喜び

譲渡会では、準備や片付けのほか、イヌを放しているサークルの中でのトイレの世話、あるいはイヌたちの散歩などをお手伝い。そうした活動の中でさまざまな発見がありますが、たくさんのイヌたちと間近でふれ合うことができるのも大きな魅力です。



大学ではふれあうことのできない たくさんの動物たちに会いに行く

また、合宿などを通じた部員の交流や、動物とのふれあいを目的として動物関係のレジャー施設に行くイベントも企画しています。これまでに行われたイベントでは動物愛護フェスタのお手伝い、横浜動物愛護センター、那須どうぶつ王国、盲導犬育成施設の見学などを実施。多様な動物たちと間近でコミュニケーションがとれる機会を、今後もさらにつくっていきたいと考えています。

02 麻布大学附属高等学校 写真部 3年生 / 島田 鼓さん



意図のある写真を撮る

部活の雰囲気や先輩の対応がよく、他の部活動と比べて楽しそうだったことが入部のきっかけです。写真部の魅力は、先輩から後輩まで垣根がなく話しやすいことです。また、写真と向き合うことで、日常を少し目線を変えて見られるようになったことも魅力です。メインの活動は、テーマを決め、カメラを持って振り歩くことです。よりよい写真を撮れるように日々精進しています。また、行事の記録としてフォトブックを作るのも活動のひとつです。熱気や感動が何年経っても思い出せるようなフォトブックを目標に作成しています。昨年実績として、高校写真連盟主催のコンテスト、鎌倉江ノ島撮影会写真コンテストに参加しました。今後の目標ですが、「意図のある写真を撮る」ために、写真に関する色々なことを学び、楽しみ、より自分たちらしい写真を撮れるよう、写真部全員で頑張りたいと思います。



今号のテーマ「事上磨錬」

事上磨錬(じじょうまれん)＝実際に行動や実践を通して、知識や精神を磨くこと。「事上」は実際に当たりながらの意。「磨錬」は練り磨くの意。今号では、今年度より始動した中期目標・中期計画とフィールドワークセンターについて特集しています。現場の意見を広く取り入れることで完成した目標・計画と現場主義の基点となるセンター。事上磨錬を形にした事例をご覧ください。

CONTENTS

NEXT AZABU CLUB		【特集2】	
[麻布大学]tier~人と動物の関係を考える		島根県美郷町に教育研究施設	
[麻布大学附属高等学校]写真部	02	「フィールドワークセンター」を新設	06
目次	03	〈トピックス〉	
		●麻布大学	08
【スペシャルインタビュー】		●麻布大学附属高等学校	10
理事長就任のご挨拶	04	●麻布大学同窓会	11
【特集1】		新任教職員あいさつ	12
第4期中期目標・中期計画について	05	編集後記	13

学園情報 **171**
2021年10月1日発行

INTERVIEW

スペシャルインタビュー

理事長就任のご挨拶

学校法人麻布獣医学園 第17代理事長

小倉 弘明

PROFILE

- 1984(昭和59)年3月 麻布大学大学院
修士課程獣医学専攻科 修了
- 1984(昭和59)年4月 農林水産省 入省
動物検疫所長、
(国研)農研機構
動物衛生研究部門長、
大臣官房審議官等を歴任
- 2020(令和2)年3月 農林水産省 定年退職
- 2020(令和2)年6月 学校法人麻布獣医学園
理事に就任
- 2021(令和3)年9月 学校法人麻布獣医学園
理事長に就任

※このほか現在、
一般社団法人全国肉用牛振興基金協会専務理事等を務める

このたび学校法人麻布獣医学園の理事長を拝命しました。高校、大学は、生徒、学生の皆さんにとっては、これからの方向付けの大切な学びの場であり、様々なひとやものごととの出会いの場でもあります。新たに策定された第4期中期目標・中期計画のミッションステートメント(行動指針)には、学生・生徒の成長を第一に考え、常に学生・生徒の夢と希望を正面から受け止め、社会の変化を見通して、社会に貢献するよう、教育研究を実践していくとあります。グリーン社会の実現、デジタル化の推進など社会の変革が言われています。生活者の日々の営みとそれから派生する課題に向き合っていく人材から社会の変革の先頭に立つ人材まで多様な人材を育成するため、幅広い確かな知識、技術と前を向く心持ちを学び育む場を維持発展させていくことが学園の役割だと考えます。学園運営を取り巻く状況に目を移すと、少子化への対応など、今後、解決していくべき様々な課題がありますが、明治23年の創立以来の学園の歴史は、社会の大きな変化や窮地に対応し、乗り越えてきた歴史でもあります。私も理事長として「学理の討究と誠実なる実践」という建学の精神と同じように、強い気持ちをもって誠実に役割を果たしていきたいと思っております。

あるべき学園の姿としては、中期目標・中期計画においてそのビジョンとして「時代を切り拓くフロントランナーの育成～実践の最前線で活躍できる人材を送り出す、時代に即した「実学の麻布」を達成する～」と掲げています。そのための取組みとして、生徒や学生の成長を第一に考えた高校・大学教育、学園経営の安定化といった基礎的な取組みとともに、大学については、社会との連携と認知度の向上に取り組みます。実学を志すとすれば、社会の実態、ニーズを知ることはそのはじまりです。多くの卒業生を輩出し、生命科学を広く教育研究分野とする大学の強みも生かし、学内での連携はもちろん、産業界、全国各地域と連携して教育研究を進め、その成果を発信して教育研究の拠点として発展していければと考えます。また、高校については、豊かな人間性を育み、責任ある大人へと成長させる学校とあります。生徒の皆さんが、高大連携としてこのような大学の取組みも垣間見ながら、自らの可能性を広げ、幅広い進路を思描けるような学びの場になればと思います。学園全体で人と動物と環境の共生を探索する「地球共生系」の実現を目指す中で、多くの人が集い生き生きと学ぶ場を提供できればと考えます。

01

令和3年度-令和7年度

第4期中期目標・中期計画について

特集1

Vision

時代を切り拓くフロントランナーの育成

実践の最前線で活躍できる人材を送り出す、時代に即した「実学の麻布」を達成する

麻布獣医学園

第4期中期目標・中期計画を開始しました

麻布獣医学園における「第3期中期目標・中期計画」(以下「第3期」という。)が令和3年3月で終了し、令和3年4月から新たに「第4期中期目標・中期計画」(以下「第4期」という。)を開始しました。麻布獣医学園が創立150周年を迎える令和22年には、わが国における18歳人口が現在の7割となる88万人に減少することが予想されており、将来にわたり本学園が社会から高い評価を受け続けていく礎を築くため、第3期までの認証評価をベースとした中期目標・中期計画を改め、第4期では、学園の諸課題に目を向けた新たな中期目標・中期計画を策定しました。

第4期の概要

第4期の計画期間は令和3年度～令和7年度の5年間となります。第4期の策定にあたっては、さまざまな会議等において教職員への意見聴取と情報共有を行った上で、89件の事業計画(うち重点事業37件)を策定しま

した。この集合体が『第4期中期目標・中期計画』となります。各事業計画の評価指標につきましては、現場からの自己申告に基づく目標値だけでなく、補助金を意識した目標、大学基準協会(認証評価)や国の動向による指標等を加味し、本学園が目指す数値を掲げております。毎年度進捗管理を行いながら、開始後3年目にあたる令和5年度には、中間評価を実施する予定です。

学生・生徒の成長を第一に、 教育の質の向上と未来に向けた取組への挑戦

第4期のVisionの下、学生・生徒の成長を第一に考えた学修者本位の教育への転換を図り、教育の質と教育力の向上により、時代に即した学生を社会に輩出できる学園の構築を目指します。事業計画の中には、全国で唯一採択された文部科学省『出る杭を引き出す教育プログラム』事業や、島根県美郷町の『フィールドワークセンター(令和3年度開設)』での取組等、新たな挑戦も多くあり、教職員一丸となって取り組んでいくことが期待されます。

※全ての事業計画については「第4期中期目標・中期計画書」及び「令和3年度事業計画書」に掲載

第4期中期目標・中期計画で

取り組むべき課題・事項

《学園の課題》

- 教育の質の転換
(「一律の学生対応」から「個々の学生対応」への取組等)
- 数値目標(KPI)の設定とPDCAの実施
- 教職員の共通理解と学園運営への参画
- 将来を見越した財政基盤の確立
- 次期認証評価の結果を反映できるよう、
受審サイクルに適した中期計画の想定

《社会の状況》

- 少子高齢化、入学定員の厳格化、私学助成の多様化、
大学版ガバナンスコードの策定
- ICT教育、SDGs、Society5.0、グローバル化、
新型コロナウイルス禍での新たな教育への発展等

《私立学校法改正(令和2年4月1日施行)への対応》

- 中期的計画が義務化(期間:原則5年以上)
- 認証評価(指摘された改善事項含む)の結果を踏まえたもの
- 評議員会での意見聴取
- データやエビデンスに基づく計画の作成等

Vision

時代を切り拓くフロントランナーの育成

実践の最前線で活躍できる人材を送り出す、時代に即した「実学の麻布」を達成する
《Vision達成に向けた5つの方針(5A)》

A1

大学教育

学生の成長を第一に

学修者本位、教育の質向上、SDGs、
Society5.0等の新たな社会を担う人材輩出

A2

研究・社会連携

研究成果の還元と社会連携

学際型、複合的な課題解決、
研究成果の社会還元

A3

社会的価値

大学認知度の向上

社会的価値、大学認知度、
社会・地域の教育研究拠点

A4

高校教育

生徒の成長を第一に

新しい価値の創造、豊かな人間性、
責任ある大人への育成、進学実績向上

A5

学園運営・経営

教育の展開と経営の安定化

特色ある教育、獣医療従事者育成、
最新獣医療の開発提供、教職協働、財政基盤安定

INTERVIEW 島根県美郷町に教育研究施設「フィールドワークセンター」を新設

特集2

02

最先端の野生動物研究や地域づくり、動物と自然と人との共生について学んでいく新しい教育拠点として開設された「フィールドワークセンター」について、生命・環境科学部の学部長である川上泰先生と同学部教授でフィールドワークセンター長を務める江口祐輔先生にお話をうかがいました。



生命・環境科学部
学部長

川上 泰



生命・環境科学部
教授・フィールドワークセンター長

江口 祐輔

はじめに「フィールドワークセンター」とはどんな施設なのか、教えていただけますでしょうか。

(川上先生)

「フィールドワークセンター」とは、島根県邑智郡美郷町に広がる豊かな自然環境の中で、フィールドワークを通して動物・植物・自然環境への理解、人と動物と環境との共生についての教育・研究に取り組む、麻布大学の生命・環境科学部に付属する教育研究施設のことで、2021年4月から運用が開始されました。

(江口先生)

美郷町と麻布大学の関係は、約20年以上前にはじまった獣医学部動物応用科学科動物行動管理学研究室との研究交流にさかのぼります。私自身もその頃から美郷町において野生動物の研究を開始し、美郷町にはその後も調査研究をする多くの学生を受け入れていただけてきました。

(川上先生)

そうした長年にわたる交流の成果として、2019年3月27日、学術研究、研究成果の実用化とその普及啓発、情報発信、人材育成、産業振興、教育・文化の振興を目的に、美郷町と本学は包括協定を締結しました。この協定の締結に加えて、環境科学科における重点施策事業のひとつとしてスタートした「地球共生系フィールドワーク教育」をきっかけに、学生たちの間でフィールドワークに対する興味が高まったこと。そして、江口先生が麻布大学に赴任してくださったことが、フィールドワークセンターの新設を大きく後押ししました。

(江口先生)

昨年からのコロナウイルスの流行によって、大学におけるリモート授業への対応が急速に整っていったことも、フィールドワークセンターを設置可能にしたひとつの要因だと思います。関連科目の座学を受講する場合にはセンターと大学のキャンパスをリモートで結び、実習を受ける場合や研究を行う場合には学生が美郷町を訪れ、私が直接教育・研究指導を担当する。大学初の遠隔地赴任という形で、私は基本的にセンターに常駐し、リモー

トによる指導を認めてくださったおかげで、こうした新しい教育のスタイルが実現しました。

(川上先生)

本当にいろいろなことがタイミングよく合わさったことから、非常に短期間のうちに話が進んでいったというのが実感です。

(江口先生)

島根県には大学が2つしか置かれていないうえに、私立大学はこれまで設置されていなかったこともあって、本学の教育施設が開設されることに美郷町のみなさんも非常に好意的で、学生たちが実習や研究に訪れる日をとでも楽しみにしてくださっています。

今後、フィールドワークセンターでは、 どういった教育研究が行われていく予定でしょうか。

(川上先生)

美郷町が行ってきた、野生動物による農作物被害への先駆的な取り組みは、全国から注目されています。そこでフィールドワークセンターを鳥獣被害対策の拠点として、美郷町の野生動物の生態や人との関わり、鳥獣被害対策の実践について、実際に野外活動を行う実習などを通じて学んでいく予定です。

(江口先生)

美郷町では野生動物と人との共生を理念に、野生動物による農作物被害を逆手に取って「おおち山くじら」というイノシシ肉を利活用した地域ブランドを誕生させ、話題を集めていますが、地球共生系を理解していくうえで学べるのが本当にたくさんあります。

(川上先生)

最近では日本でもジビエが浸透しつつありますが、野生動物は病原体をもっている可能性もあるため、イノシシ肉やシカ肉などの寄生虫を調べ、食の安全を考える研究も行っていく予定です。

(江口先生)

イノシシの利活用については、美郷町独自の処理システムを研究し、導入してきました。今後も、野生のイノシシ肉の魅力を最大限に活かした食品加工をめざすなど、食品生命科学科の学びにつながる研究も進めていきたいですね。こちらに関しては、すでに地元の食肉加工会社の方を特別講師に迎え、リモートによる授業を実施しており、学生たちからも非常に好評を得ています。

(川上先生)

島根県は10万人当たりの100歳以上人口日本一の長寿県ですが、その県内市町村別で美郷町は1位という長寿の町。そこで地域の食事や生活習慣について調査し、データから健康長寿との関連を解析していく。ほかにも、野生動物がもつウイルスは、蚊やダニによる吸血を通じて人へと媒介されることがありますが、人の健康を守るため、どんな種類の蚊やダニがいるのか、あるいはそれらがどの程度危険なウイルスを持っているのか、調査していくことも考えています。

フィールドワークセンターを活用することで、学生の皆さんには どんな学びを体験してほしいと考えていらっしゃいますか。

(江口先生)

一般的に野生動物のフィールドワークというと、人間が山の中に入っていった動物の足跡や糞などの痕跡を観察したり、発信器をつけて地図上

に落とした間接的なデータで研究したりすることが多かったといえます。それが美郷町では、野生動物を直接研究することができてしまう。イノシシなどを研究するなら、彼らと顔見知りになって直接観察させてもらう。それが難しいなら、野生個体を飼育管理下で一緒に生活することで、いろいろな行動や能力を教えてもらう。そんな、今までにない研究手法を組み合わせながら、われわれが今まで知らなかった野生動物のブラックボックスの部分を明らかにしていく研究ができるのが、フィールドワークセンターの魅力だと私は考えています。

(川上先生)

そもそもフィールドワークは「現地調査」っていうことですからね。生命・環境科学部の学生の皆さんがフィールドワークセンターを活用することで、大学のキャンパスにいるだけでは味わえない体験してほしいと考えています。

(江口先生)

研究する場所も、山や川といった「ネイチャーフィールド」だけではなく、地域に行き、地域に暮らす人たちの生活を見て、その中で問題になっていることを自分の目で確かめてみる。そのうえで、その地域に合った解決方法を探っていくことが大切です。

(川上先生)

決まりごとの研究ではなく、この地域の状況だったらどう研究をして、どう技術を開発していったらいいんだろうか。フィールドワークセンターでそういったプロセスを学んでいくことにより、臨機応変に考えられる力をつけていってくれればと思っています。

(江口先生)

川上先生がおっしゃるとおり、ひと言に「鳥獣被害」といっても、100の畑があれば100の対策があります。それに対応できるような経験を積めるのは、やはり現場しかありません。もちろん大学で受講する座学も大事ですが、今後は両者のバランスを取りながら、学生の皆さんがより良い学びを得られる環境を整えていきたいです。

(川上先生)

野生動物の研究というと、環境についての研究と少し離れているんじゃないだろうか。そんなイメージをもっている人が、高校生だけでなく大学生の中にも多いと思います。しかし、このふたつの関係は非常に密接で、人と動物と環境の共生をめざすことは、麻布大学の学びの理念そのものです。そうした意味でも、生命・環境科学部に付属する教育研究施設としてフィールドワークセンターが開設されたのはとても意義があります。江口先生の研究室は、今後、「フィールドワーク研究室」という名称で設置されていく予定ですが、この研究室には本学部のどの学科からでも入室することができますから、野外調査に少しでも興味があるという皆さんは、ぜひ参加してほしいと考えています。

(江口先生)

自然が好き、動物が好きだという学生の皆さんと、現場と一緒に研究することに、今からワクワクしています。美郷町の自然だったり、動物だったり、この地域で暮らす人たちの笑顔だったり、そういったものをたくさん見て、感じてほしいものもたくさんあります。私もフィールドワークセンター長として、学生の皆さんがここで研究したいと思うような、好奇心を刺激される経験をたくさん提供できるよう、全力を尽くしていきたいです。また、フィールドワークセンターの開設をきっかけに、島根県内の高校生の皆さんに麻布大学へ関心をもってもらう取り組みを行っていくこと。学部生や院生の皆さんには、鳥獣害対策やSDGsなどの環境分野において注目され、多くの企業や団体と連携している美郷町でのフィールドワークをきっかけに、就職のマッチングにもつなげていければと考えています。

TOPICS AZABU UNIVERSITY

「オンラインSDGsシリーズ講演会」に生命・環境科学部の教員が登壇しました

1月30日(土)～2月28日(日)

相模原市立青少年学習センター主催のオンラインSDGsシリーズ講演会に、本学環境科学部の村山史世講師と坂西特任助教が登壇し、その内容が相模原市公式YouTubeチャンネルで公開されました。

環境科学科の学生が企業の協力の下でPBL型演習を実施しました

2月25日(木)

株式会社JR東日本環境アクセスの協力のもとで実施したPBL (Project Based Learning) の最終報告会をオンライン (Zoom ミーティング) にて行いました。

環境科学科の学生が「環境フィールドスタディ」(2年次後期選択)の授業の一環として、JRの駅利用者として、「缶・ビン・ペットボトルの分別促進」、「飲料容器専用ボックスへの飲み残しや不適物の混入防止」、「駅ゴミ箱への家庭ごみ持ち込み防止」といった課題に取り組みました。



麻布大学フィールドワークセンター開設式を執り行いました

3月24日(水)

「麻布大学フィールドワークセンター」の開設式を執り行いました。

麻布大学フィールドワークセンターは、令和3年4月から、生命・環境科学部の附属施設として、このフィールドワークセンターを拠点として、教育・研究面で地域と連携して活動していく計画です。



生命・環境科学部分析センターを設置しました

4月1日(木)

生命・環境科学部では、2021年4月から、新たに分析センターを設置しました。学内の分析機器等を集中管理し、効率的な運用を図り、教育・研究活動を活性化します。

令和3年度麻布大学入学式を執り行いました

4月4日(日)

令和3年度麻布大学入学式を本学アリーナで執り行いました。

新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策として、式典参加者は、入学者のみとなりました。そのため、父母の方々には、ライブ配信映像を自身のスマートフォン等により、リアルタイムで視聴していただきました。



新2年次全員へ学長が対面で入学歓迎の祝辞を伝える

4月5日(月)

令和2年4月に入学した学生(新2年次)に向けて、在学生ガイダンスの時間の中で、浅利学長が入学者へ祝辞を対面で伝えました。

全学(2学部5学科)の新2年次全学生は、各学科別ガイダンスに参加して、学長から目前で、入学歓迎のメッセージを1年遅れで聞く機会を得ました。



アースデイ東京2021に環境科学科の学生が登壇

4月17日(土)

アースデイ東京2021において、アサヒビール株式会社によるイベント「EarthDay2021オンライン乾杯!衣・食・住・学×SDGsコラボトーク」に、環境科学科4年次の平井悠誠さんが登壇しました。

アースデイ東京は、毎年4月22日のアースデイ前後の週末に合わせて代々木公園で開催される世界規模の環境イベントです。本年は、代々木公園でのフェスティバルと複数会場でのオンラインを掛け合わせた新しい形態で開催されました。オンライントークにおいて、平井さんは、環境科学科の学生を中心とした学生メンバーとアサヒビール(株)の産学連携による「学内・学外での使い捨て削減の取り組み」を紹介しました。



環境科学科が「さがみはらSDGsパートナー登録証盾」の交付を受けました

5月11日(火)

相模原市主催の「さがみはらSDGsパートナー登録証盾交付式」が、相模原市役所で開催されました。本学のSDGs推進が認められ、本村賢太郎相模原市長から登録証盾の交付を受けました。

交付の後、相模原市長とパートナー間の関係者において、意見交換会が行われ、更なる連携・協力について確認をしました。本学では、今後もSDGsを積極的に推進し、持続可能な社会の実現に貢献していきます。



～トピックス 麻布大学～

SC相模原とのクリーンパートナー契約締結

6月10日(木)

株式会社スポーツクラブ相模原が経営する「SC相模原」(J2リーグ所属)と2021年度のクリーンパートナー契約を締結しました。

本契約は今年で5年目となり、本学はSC相模原が取り組む環境活動を引き続き支援していきます。

FC町田ゼルビアとのオフィシャルクラブパートナー契約締結

6月11日(金)

株式会社ゼルビアが運営するサッカークラブ「FC町田ゼルビア」(以下ゼルビア)とオフィシャルクラブパートナーシップ契約を締結しました。

本契約は5年目となり、本学はゼルビアの活動趣旨である「スポーツの啓発普及、地域福祉活動、青少年の健全育成、健康維持増進、地域活性化への貢献」に賛同し、その活動を支援するために協賛します。

令和3年度 麻布大学 学業成績優秀者・学生功労賞・増井光子賞表彰式を行いました

6月24日(木)

麻布大学学生表彰規則に基づき、本学8号館7階百周年記念ホールにて、令和3年度麻布大学学業成績優秀者、学生功労賞、増井光子賞表彰式を行いました。

HACCPの制度化に対応して食品安全の人材育成を強化-食品安全研修を学科横断で展開し、社会人教育も推進-

6月29日(火)

改正食品衛生法が令和3年6月1日から完全施行されたことに対応して、「HACCP(ハサップ)*に習熟した人材」として食品安全の専門人材育成を強化していきます。

本学生命・環境科学部食品生命科学科では、国内の大学に先駆けて、第三者の専門機関の承認を受けた食品安全研修を2019年から実施しています。すでに2年間で、計144人が食品安全研修を修了して、卒業後食品関連業界や行政・自治体などの食の安全の分野で、即戦力として活躍しています。また、農林水産省からの依頼で、ASEAN諸国におけるHACCP研修を2020年2月にベトナムを皮切りに実施し計39名が修了しています。

ヒトと動物の共生科学センター Research Weeks 2021 を開催しました

6月28日(月)~7月2日(金)

学内関係者のみを参加対象とし、麻布大学ヒトと動物の共生科学センター2021年度先端研究プロジェクト開始に伴うキックオフ発表会『Research Weeks 2021』を開催しました!

ヒトと動物の共生科学センターでは、今年度(2021年度)、10の先端研究プロジェクトを採択し、各プロジェクトが、生命現象の謎を解き明かしつつ、社会貢献につながる研究を邁進しています。

開始したばかりのプロジェクトでもあるため、まずは、学内でプロジェクト内容を広く知ってもらうとともに、研究の方向性の議論、弱点の指摘、共同研究の発掘など、アイデアを交換することを目的として実施しました。

麻布大学

Research Weeks 2021上半期

プロジェクト研究テーマ

- (1) 認知的インタラクション解析に関する先端研究
- (2) 共進化遺伝子の同定に関する先端研究
- (3) 微生物クレストークに関する先端研究
- (4) 人獣共通感染症に関する先端研究



〈生命・環境科学部との協定先〉

下記の高等学校と教育連携及び協力に関する協定を締結しました。

2月24日(水)	工学院大学附属中学校・高等学校
3月19日(金)	横浜高等学校
6月17日(木)	横浜清風高等学校
7月1日(木)	聖セシリア女子高等学校
7月5日(月)	聖パウロ学園高等学校
9月21日(火)	横浜創英中学・高等学校

〈イベント実施報告〉

下記のとおり、高校生向けイベントを開催しました。

6月6日(日)	オープンキャンパス
7月4日(日)	オープンキャンパス
7月17日(土)、7月18日(日) 7月24日(土)、7月25日(日)	生命・環境科学部 見学会
8月9日(月)	生命・環境科学部 オープンキャンパス(島根県美郷町)
8月21日(土)~8月27日(金)	オープンキャンパス

TOPICS AZABU UNIVERSITY HIGH SCHOOL

～トピックス 麻布大学附属高等学校～

第58回卒業証書授与式

3月1日(月)

第58回卒業証書授与式が挙行されました。

コロナ禍で前期はオンデマンド(動画)やオンライン授業等家庭での学習を余儀なくされ、登校や活動のままならなかった3年生たちでしたが、誰も経験したことのないこの事態を真摯に受け止め、「感染対策を行いながら可能な限り通常の学校生活をする」ことに生徒も教員も一致して取り組むことのできた1年でした。保護者は各家庭1名のみ入場可能という制限つきではありましたが、本当に凛々しくなった257名の姿を教職員・保護者が共に祝福し送り出すことができ、とても嬉しいひとときとなりました。

着任式・始業式

4月5日(月)

令和3年度も多くの新しい先生方を迎えました。例年のようにアリーナで一同に会することはできませんが、各クラスで放映された新任の先生方のフレッシュで意欲溢れる挨拶は、上級生となった生徒にも大きく響き、新たな期待と希望を持って新年度をスタートさせるいい契機になったようです。

体育祭

5月18日(火)・19日(水)



FOR OUR SMILE

Azabu Univ.HS promoters



© FOS-labo

第61回入学式

4月6日(火)

今年度は324名の新入生(9クラス)を迎えました。

新しい制服に身を包み、緊張した面持ちの入学生を見るとほほえましく、またこちらも身の引き締まる思いが致します。真剣に祝辞に耳を傾ける姿に、これからどのような成長を遂げるだろうと始まる新年度に新たな希望を感じるひとときとなりました。

3年生校外学習

6月18日(金)

コロナ禍で様々な活動が制限される中、「これから受験に挑む3年生にも思い出に残る楽しい1日を」との学年の先生方の意向もあり、横浜・八景島を訪れました。気の置けない仲間としばし学校を離れて過ごす時間はまたたく間だとふりかえる様子には、マスクをしていてもいい顔をしていることがよく伝わりました。

また、10月に2年生は修学旅行に代わる校外学習(2日間)、1年生は社会見学を実施する予定です。

いつもそうだ
天気心配なんだ
こんなにも
スマホの天気予報を見まくるなんて…

の前に
体育祭はできるんですか？

社会情勢と生徒の思いと私
いつも心に【FOR OUR SMILE】

彼らのパワーに圧倒され
先生方の協力に心打たれた2日間

自分たちでスイッチを押し
自分たちで盛り上げた体育祭
可能性しかない彼らは
今後も遅しく成長していくだろう

素晴らしい成長は
素敵なお顔を生み出した

そして
格好いい佇まいが生まれた

これからも
その背中は語ることをやめないだろう



これからのイベント

●9月
翔瀏祭



●10月
前期期末試験
校外学習(2年生)
社会見学(1年生)



●11月
球技大会



●12月
後期中間試験



●令和4年1月
英検1次試験受験



●2月
英検2次試験受験
(外部会場)
クラスマッチ



●3月
卒業式
後期期末試験
修了式
離任式



TOPICS AZABU UNIVERSITY ALUMNI ASSOCIATION

～トピックス 麻布大学同窓会～

麻布大学同窓会の新型コロナウイルス感染症に対する学生への支援について

麻布大学同窓会(会長 福山 守)は、今年度も新型コロナウイルス感染症により経済的に困窮する本学の学生を支援します。気軽にご相談ください。

「学納金対象奨学金」(既存)

- (1)返済開始時期を卒業後2年から5年とします。
- (2)返済期間を5年間で10年間とします。
- (3)連帯保証人を2人から1人とします。

●ご相談はテラスいちよう2階同窓会事務室へ

電話：042-769-2183 FAX：042-759-0337

Mail: doso@azabu-u.ac.jp

令和3年度第1回麻布大学同窓会理事会開催

5月22日(土)

本学「テラスいちよう2階多目的室1」において、令和3年度第1回麻布大学同窓会理事会をオンラインで開催いたしました。当日は互いの通信状態を確認してから開始したため、長時間にわたる会議となりましたが、事業報告、事業計画(案)について審議し、活発な意見交換ができました。



浅利学長から感謝状を受け取りました

5月22日(土)

令和3年度第1回麻布大学同窓会理事会開催前に感謝状を受け取りました。

感謝状全文

貴会は新型コロナウイルス感染症が大流行する中 経済的に困窮する学生を支援するため凡そ2千5百万円にわたる多額の資金の寄付をされ そのため全学年に奨学金を給付することができました また学生に対する奨学金の貸与条件を緩和していただきました ここにそのご厚意に対し深く感謝の意を表します

令和3年3月15日

学校法人麻布獣医学園理事長・麻布大学長 浅利将男



写真左：麻布大学同窓会 福山 守 会長 写真右：麻布大学 浅利 昌男 学長
(理事長・学長の役職は、令和3年5月22日時点のものです)

令和3年度麻布大学同窓会代議員会開催

今年度もコロナ禍により、令和3年度代議員会を持ち回り会議で令和3年5月29日～6月11日に開催いたしました。

◎議題：令和2年度事業報告及び収支決算報告並びに監査報告について、令和3年度事業計画(案)及び収支予算(案)について、理事及び監事の承認について

◎報告：会長選挙について、麻布大学同窓会獣医部会規約の一部改正について、その他

新型コロナウイルス感染症への対応によるイベントの開催について

今年度、次のイベントの開催が予定されています。新型コロナウイルス感染症への対応を考慮し、開催日程や内容が変更になった際には、麻布大学同窓会HPでお知らせしますので、よろしくお願い申し上げます。

◎大学祭：Web配信、オンラインによる開催(10月30日(土)～31日(日))

◎動物応用部会：「学科創立45周年記念祝賀会」及び「卒業生と在学生の集う会」(11月13日(土))

◎麻布獣医学会：休会。但し、麻布獣医学会に代わる教育セミナー・市民公開講座を開催(11月27日(土))

◎獣医部会：令和3年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会は、オンラインによる開催(令和4年1月21日(金)～2月4日(金))が予定されていますので同窓会ブースの開設及び交流会は、中止します。

GREETING

～新任教職員あいさつ～ ●自分を漢字1文字で例えると

① 新任にあたっての抱負 ② 趣味や特技 ③ 麻布大学の学生・麻布大学附属高等学校の生徒の印象は？



丸 昔に比べるとだんだん身も心も丸くなっています。身は引き締めて、心は柔らかくありたいと思っています。

獣医学部 獣医学科 感染免疫学研究室
教授 川本 恵子

① 2021年4月より新しく再編された感染免疫学研究室の教授として麻布大学に着任しました。新しい研究室を早く機能できるよう環境を整えるのが当面の目標です。教育においては教科書的な知識の教授だけでなく、考える力を引き出せるような教育を心がけていきたいと考えています。学生と共に学びながら、私自身も新しい気付きに出会えることが楽しみです。② 趣味は、釣り、山歩き、乗馬とチェロです。乗馬とチェロは上達しませんが、馬や楽器に触れる時間を大切にしています。③ 礼儀正しくて素直な学生が多いと感じています。また、課題や授業後の小テストの提出率も高いです。



創 これまでにない新しい知見や新しい方法を見つけ出し、それを社会に役立てるための基盤～実装まで創り上げていきたいと思っています。

獣医学部 獣医学科 臨床繁殖学研究室
教授 吉岡 耕治

① 前職では、国立研究開発法人で産業動物の繁殖補助技術や繁殖障害の研究を行っていました。本学でもこれまでの研究基盤を活かしつつ、繁殖性の向上や繁殖障害の防除に関して、基礎から応用・社会実装に至る幅広い研究を対象としながら畜産の生産性向上に貢献していきたいと思っています。また、学生さんが将来、社会で活躍できる人材になれるように、自分の知識や技術をできる限り伝えていきたいと思っています。② DIY、といったところですが、このところさっぱりご無沙汰です。③ コロナ禍の中の学生生活であるにも関わらず、学習意欲も高く、みなさん前向きにがんばっておられると思います。



転 これまでに度々「転」居してきたから。休日に「転」寝することがあるから。自「転」車で出かけるのが好きだから。

獣医学部 獣医学科 公衆衛生学第一研究室
准教授 吉岡 亘

① 學理を討究していきたいと思っています。② たまに阿波番茶を淹れて飲んでいます。③ 私が荷物を抱えて建物から出ようとしていたときに学生さんに扉を開けてもらったことがあったりして、親切な人がいるなと思いました。



礼 挨拶をする、ありがとうと言う、感謝の気持ちをもつことを心がけて。

獣医学部 動物応用科学科 比較毒性学研究室
講師 寺川 純平

① 私は学生時代、動物種によって様々な形態をとる胎盤形成に興味を持ち、研究の分野に足を踏み入れました。生物がいかに巧妙で興味深いものであるかということ、講義や実習、研究を通して伝えたいと考えています。現在は雌性生殖器官の発生と機能維持、がんを含む疾患についての研究を進めています。研究を進めるとともに、動物生命科学分野で社会に還元できる成果を得たいと考えています。② 市民ランナーとして弱小ですがマラソンを続けています。最近はトレイルランに挑戦中です。③ 礼儀正しく、気遣いのできる学生が多いと思います。また動物や生物に興味があり、自分の目指す方向がはっきりしているという印象です。



楽 1日1日楽しみながら大切に過ごしていけるように選びました。

生命・環境科学部 臨床検査技術学科 衛生学研究室
教授 松下 暢子

① 本年度4月より着任いたしました。これまでゲノムDNAの損傷修復機構の研究を行なっており、今後は研究とともに、臨床と基礎をつなぐような教育を目指して力を尽くしていきたいと考えております。どうぞよろしくお願いたします。② 読書と音楽です。③ 広く緑が豊かなキャンパスのように、明るく自由な雰囲気を感じます。



実 真実→実績、誠実→実践と「実」を中央に置くと、私が日頃感じながら行動している熟語がすぐに縦横に並びました。

生命・環境科学部 生命・環境科学部 共通 フィールドワーク研究室
教授・フィールドワークセンター長 江口 祐輔

① 13年ぶりに麻布大学に復職いたしました。前職でも客員教授として麻布大学の学生を受け入れ、ともに研究を行ってきました。私は島根県美郷町のフィールドワークセンターに常駐するため、相模原のキャンパスには月に数回しか行きませんが、これからは一層学生のみならずと関わり合えることを楽しみにしています。② 海や緑に囲まれた環境でボーッとすることです。また、サッカー協会のスクールや小学校のチームで子供達と一緒にサッカーを楽しんでいます。③ 「素直」です。様々なことを学び、吸収していくにはとても良い資質ですが、今後は変化する社会に対応できるよう、「常識を疑う」というスタンスも持ち合わせて欲しいと思います。



波 脳波検査や筋電図検査の「波」を解析することに大学の時間を費やしてきました。人生における「波」にも真正面から向かっていきたいと思っています。

生命・環境科学部 臨床検査技術学科 生理学研究室
准教授 小野澤 裕也

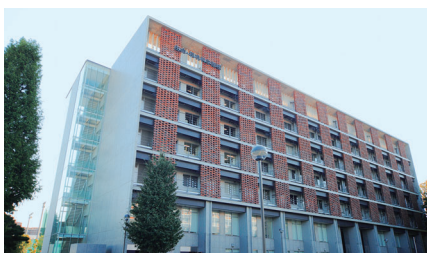
① 臨床神経生理学を専門に大学病院で臨床検査技師として勤務しておりました。先端医療における臨床経験を基に学生教育と研究に邁進したいと考えております。② 脳波判読!延べ5万件以上の患者さんの脳波を判読してきました。③ 大学にはアットホームな雰囲気があり、学生さんからも優しい雰囲気を感じます。



言 「言」と書いて「ことば」と読みます。人は思いを言葉に表します。思いが強ければ強いほど、言葉にメッセージが込められます。本研究室は、思いを言葉で表現する力を培えるプログラムを準備して学生の皆様をお待ちしております。

生命・環境科学部 生命・環境科学部 共通 国際コミュニケーション研究室
講師 城山 光子

① 学生さん一人ひとりと丁寧にコミュニケーションを取りながら、共に学んでいきたいと思っています。② 趣味はヨーロッパの建築を巡ることです。③ 最初は控えめな学生さんが多いと感じましたが、接していくうちに、素直で真摯に大学生活に打ち込まれている姿に大変感心致しました。コロナ禍の影響を受けながらも学友同士で仲良くされている様子は、自分の大学時代と重なる部分も多く、大学キャンパスの普遍的な価値を感じています。大学生活で多くの人脈を築いていただきたいと思います。





心 初心を忘れずに
一意専心に取り組む、
という思いを込めました。

生命・環境科学部 臨床検査技術学科 病理学研究室
助教 小山 雄一

①臨床検査技師としての経験を生かして大学に貢献します。未熟者ですが、多くの事を吸収して成長していけるように努力いたします。②休みの日に家族に料理を作ったり、子供と公園で遊ぶことが楽しみです。③素直な学生が多いです。勉強熱心な学生も多く、刺激を受けています。



動 私自身がちよこちよこ「動」き回っていること、
友人と出かけるなど
活「動」が好きであることから。

麻布大学附属高等学校
教諭 荒木 彩文

①麻布生の長所を伸ばし、高校生活を通じて、勉強以外の”大切なもの”も教えられるように日々頑張ります! ②趣味はカメラを持って出かけ、きれいなものを撮ること/(コロナ禍前は)海外旅行です。③切り替えが早いという印象でした。休み時間に友達と騒いでいても、授業の2分前には着席し、授業中はしっかりと集中していることに驚きました。



猫 来るもの拒まず
去るもの追わずと
よく言われるからです。

麻布大学附属高等学校
教諭 山口 稜太

①分かりやすい授業、真剣に取り組む部活動になるよう頑張ります。②ソフトテニスを中学からずっと続けてきました。最近では料理にはまっています。③素直で真面目に取り組む生徒が多いと感じています。



誠 私は不器用な人間ですが、
何事にも誰にでも、誠心誠意接することを心がけ、
そのおかげで多くの人に助けられてきました。

事務局 総務部 広報課
職員 檜垣 昌利

①中途採用なので、過去の経験を活かし、できる限り即戦力として貢献できるように頑張ります。②趣味は、歴史(幕末・三国志に関わる事)、カラオケ、ボウリングです。特技は、過去に空手道(初段)、少林寺拳法(3級)、合気道(経験のみ)をやっていたことです。③母校と比べると皆さんとても穏やかで、真面目な印象です。



雷 「象に曰く、雲の天に上るは雷」(『周易』より)
雷とは、雨が降るのをじっと待つこと。
私には運否天賦な部分があるので。

事務局 総務部 経理課
職員 渡辺 葉月

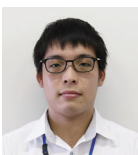
①麻布大学附属野辺高等学校を卒業して7年、職員として学園に戻って来られたことを嬉しく思います。学園のさらなる発展のため励んで参りますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。②大学院でも専攻するほど漢文が好きで、今でも時々読んでいます。ほかには、小さい頃から生き物(特に昆虫)が大好きで、道ばたで見かけた虫や植物を同定するのに夢になり、よく時間を忘れてしまいます。③麻布の学生・生徒は落ち着いた印象で、それは私が高校生の時から変わりません。動物好きが多いからか、優しい人も多い気がします。



拓 新しいことが大好きで、
趣味やお店など、
常にになにか新規開拓できないかを探しているため。

事務局 教務部 教務課
職員 中里 太河

①新卒で入職しました。獣医学科や、大学院生の中には、自分より年上の方も居てびっくりしました。常に学生ファーストの意識を持ち、学生と良好な関係が構築できればと思います。どうぞよろしくお願ひします。②スキューバダイビング、スノーボード、街歩き。③笑顔が多い印象です。学生生活を楽しんでいるのが伝わります。



試 「試」される場面が多いなかで、
これまで以上に新しいことを「試」す、
チャレンジ精神を忘れずに日々過ごしていきたいです。

事務局 教務部 キャリア・就職支援課
職員 増井 秀明

①4月より新社会人ということだけでなく、地元を離れての新生活で右も左もわからない状態ですが、入職日の気持ちを忘れず、日々誠実に仕事に励み、学園の発展に貢献したいです。②趣味は休日に旅行やカフェ巡りをすることです。特技はないですが、サッカーは少しだけできます。③明るくて穏やかな印象があります。新型コロナウイルスの感染拡大が終息し、早く賑やかなキャンパスに戻ってほしいと願っております。



運 行き当たりばったりなのに、
安泰に生きてこれた
自分は運のいい人間だなあと
思うことがあります。
本学に就職できたのも運がよかったなあと感じています。

事務局 教務部 産学連携室 兼 研究推進課
職員 駒谷 悠一郎

①この春から社会人になりました。まだ分からないことばかりで未熟者ですが、先生方の教育研究活動を支援・推進できるよう、また学生の皆様の学生生活の充実に貢献できるよう日々成長できたらと思います。②中学から陸上競技をしていたので走るのが得意です。専門種目は400mでした。早く届けたい書類があるときは私におまかせください。③穏やかな学生が多い印象です。動物とのふれあいがそうさせるのでしょうか。

編集後記

今号では、9月に就任された新理事長の挨拶に始まり、「特集1」として今年度から始まった「第4期中期目標・中期計画」の概要、その取り組みや狙いについて紹介をしました。続いて、「特集2」では今年度新たに学外の教育拠点として鳥根県美郷町に開設された「麻布大学フィールドワークセンター」を取り上げて、生命・環境科学部長及びフィールドワークセンター長に施設の概要や今後期待される教育研究内容についてのインタビューを掲載しました。

本学園は、学生・生徒の成長を第一に考え、時代に即した「実学の麻布」を達成していくため、学園の諸課題に目を向けた新たな中期目標・中期計画を策定し、教職員が丸となってその遂行に取り組んでいます。また、社会に開かれた新しい取り組みを実施して学園の更なる発展を目指しています。これらの様子が伝われば幸いです。

学園広報委員会委員長 村上 賢

地球共生系

～人と動物と環境の共生をめざして～

麻布大学の建学の精神は「学理の討究と誠実なる実践」です。

本学は、創設者よくら はるたか與倉東隆先生の建学の精神である、学理を討究し実践を重んじる誠実なる校風を受け継ぎ、

人と動物との共存および人と自然環境との調和の途を探求することを目的として

獣医学、畜産学、動物応用科学、生命科学および環境科学に関する専門の知識を教授研究し、

その応用力の展開をはかるとともに、進んで学術の進歩と国民生活の向上に寄与し、

平和社会の建設に貢献することとしています。

大学

[獣医学部]

- 獣医学科
- 動物応用科学科

[生命・環境科学部]

- 臨床検査技術学科
- 食品生命科学科
- 環境科学科

大学院

[獣医学研究科]

- 獣医学専攻(博士課程)
- 動物応用科学専攻(博士前期・後期課程)

[環境保健学研究科]

- 環境保健科学専攻(博士前期・後期課程)

麻布大学附属高等学校

- 普通科

附置・附属機関

- 附置生物科学総合研究所
- 附属学術情報センター
- 附属動物管理センター
- 附属動物病院
- 附属教育推進センター
- 研究推進・支援本部
- 地域連携センター
- 麻布大学いのちの博物館
- 健康管理センター
- 麻布大学フィールドワークセンター

学園情報 171

AZABU UNIVERSITY 2021年10月1日発行

発行／学園広報委員会

〒252-5201 神奈川県相模原市中央区淵野辺1-17-71 TEL.042-754-7111(代表)



学校法人 麻布獣医学園

麻布大学

〒252-5201 神奈川県相模原市中央区淵野辺1-17-71

TEL 042-754-7111(代表)

TEL 042-769-2032 総務部 広報課 直通

FAX 042-850-2505 総務部 広報課 専用

ホームページ <https://www.azabu-u.ac.jp/>

Eメール koho@azabu-u.ac.jp

総務部 広報課



麻布大学附属高等学校

〒252-0206 神奈川県相模原市中央区淵野辺1-17-50

TEL 042-757-2403 FAX 042-751-6280

ホームページ <http://www.azabu-univ-high-school.jp/>

麻布大学同窓会

〒252-5201 神奈川県相模原市中央区淵野辺1-17-71

TEL 042-769-2183 直通 FAX 042-759-0337

ホームページ <https://azabu-doso.com/> Eメール doso@azabu-u.ac.jp